別紙１

（１）認知症介護基礎研修　講義・演習６時間（360分）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　　　　　　　　的 | 内　　　　　　　　容 | 時間数 | 区分 | 通信形式で実施できる科目 |
| (1)認知症の人の理解と対応の基本 | 認知症の人を取り巻く現状、症状に関する基礎的な知識を学び、認知症ケアの基礎的な技術に関する知識を身につける。 | ・認知症の人を取り巻く現状・認知症の人を理解するために必要な基礎的知識・具体的なケアを提供する時の判断基準となる考え方・認知症ケアの基礎的技術に関する知識 | 180分 | 講義 | ○ |
| (2)認知症ケアの実践上の留意点 | 認知症ケアの実践を行うために必要な方法について、事例演習を通じて、背景や具体的な根拠を把握の上、ケアやコミュニケーションの内容を検討する。自事業所の状況や自身のこれまでのケアを振り返り、認知症の人への対応方法を身につける。 | ・認知症の人との基本的なコミュニケーションの方法・不適切なケアの理解と回避方法・病態・症状等を理解したケアの選択・行動・心理症状（ＢＰＳＤ）を理解したケアの選択と工夫・自事業所の状況や自身のこれまでのケアの振り返り | 180分 | 演習 |  |

　（２）認知症介護実践研修

　　　ア　認知症介護実践者研修　講義・演習３１．５時間（1,890分） 実習：課題設定240分、職場実習４週間、実習のまとめ180分

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　　　　　　　　　　的 | 内　　　　　　　　　　容 | 時間数 | 区分 |
|  １　認知症ケアの基本的理解 |
| (1) 認知症ケアの基本的視点と理念 | 高齢者施策における認知症ケアの方向性と位置づけを理解し、個人の尊厳を重視する認知症ケアの理念の構築を促す。 | ・高齢者施策と認知症介護実践者研修等の位置づけ・認知症ケアの歴史的変遷・認知症ケアの理念構築・自己課題の設定 | 180分 | 講義・演習 |
| (2) 認知症ケアの倫理 | 認知症ケアの倫理の理念や原則を理解し、日常的なケア場面での倫理的課題と本人や家族の意思決定や意思表出の判断の根拠を踏まえ、支援のあり方について理解を深める。 | ・認知症ケアの倫理の理念や原則に関する基本的知識・日常のケア場面における倫理的課題と支援のあり方 | 60分 | 講義・演習 |
| (3) 認知症の人の理解と対応 | 加齢に伴う心身の変化、疾病、認知症の原因疾患、中核症状、心理的特徴を理解した上で、行動・心理症状（ＢＰＳＤ）の発生要因と実践場面での対応を理解し、認知症ケアの実践につなげる。 | ・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病・認知症の原因疾患・若年性認知症・認知症の中核症状と行動・心理症状（ＢＰＳＤ　） | 180分 | 講義・演習 |
| (4) 認知症の人の家族への支援方法 | 在宅で介護する家族支援を実践する上で、その家族の置かれている状況や介護負担の要因を理解し、必要な支援方法が展開できる。 | ・家族介護者の理解・家族の心理と家族を支える方法 | 90分 | 講義・演習 |
| (5) 認知症の人の権利擁護 | 権利擁護の観点から、認知症の人にとって適切なケアを理解し、自分自身の現状のケアを見直すとともに、身体拘束や高齢者虐待の防止の意識を深める｡ | ・権利擁護の基本的知識・身体拘束や高齢者虐待防止法・権利擁護のための具体的な取組み | 120分 | 講義・演習 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　　　　　　　　　　的 | 内　　　　　　　　　　容 | 時間数 | 区　分 |
| (6) 認知症の人の生活環境づくり | 住まいの様式、介護者の関わり方など認知症の人を取り巻く生活環境の構築や改善のための評価方法や調整方法を修得する。 | ・認知症の人と環境の基本的知識・環境改善の評価と具体的取組み・環境のリスクマネジメント | 120分 | 講義・演習 |
| (7) 地域資源の理解とケアへの活用 | 関係職種、団体との連携による地域づくりやネットワークづくり等を通じて、既存の地域資源の活用や認知症の人の暮らしを支える地域資源の開発の提案ができる。 | ・地域包括ケアの理解・インフォーマル・フォーマルな地域資源の理解と活用・地域資源の活用方法の実際 | 120分 | 講義・演習 |
|  ２　認知症の人への具体的支援方法と展開 |
| (1) 認知症の人とのコミュニケーションの理解と方法 | 認知症の人とのコミュニケーションの基本的知識を理解し、中核症状の特徴や進行に応じたコミュニケーション方法を身につける。 | ・認知症の人とのコミュニケーションの基本的知識・認知症の人とのコミュニケーションの場面と方法 | 120分 | 講義・演習 |
| (2) 認知症の人への非薬物的介入 | 非薬物的介入やアクティビティプログラムなどの支援の取組みを認識しつつ、認知症の人の心理的安定や生活の質を向上するための活動についての理解を深めること。 | ・認知症の非薬物的介入やアクティビティ等の基本的知識と具体的な取組み・認知症の人への介入の評価方法 | 120分 | 講義・演習 |
| (3) 認知症の人への介護技術Ⅰ（食事・入浴・排泄等） | 食事・入浴などの基本的な生活場面において、中核症状の影響を理解した上で、日常生活の安全・安心の向上、健康の維持増進を図りつつ、認知症の人の能力に応じた自立支援の実践ができる。 | ・認知症の人への食事、入浴、排泄ケアの考え方・失行、失認、見当識障害がある人への対応方法 | 180分 | 講義・演習 |
| (4) 認知症の人への介護技術Ⅱ（行動・心理症状） | 認知症の人の行動の背景を理解した上で、認知症の行動・心理症状（ＢＰＳＤ）に対してチームで生活の質が高められるような支援方法を修得する。 | ・攻撃的言動、徘徊、性的逸脱、不潔行為、帰宅願望等への対応方法とケアチームの連携・行動・心理症状（ＢＰＳＤ）の対応方法とケアチームの連携 | 180分 | 講義・演習 |
| 科　　目 | 目　　　　　　　　　　的 | 内　　　　　　　　　　容 | 時間数 | 区　分 |
| (5) アセスメントとケアの実践の基本Ⅰ | 認知症の人の身体要因、心理要因、認知症の中核症状の要因のアセスメントを行い、具体的なニーズを把握することができるようアセスメントの基本的視点を理解する。 | ・アセスメントの基本的視点・ケアの実践のための基本的視点・アセスメントの手法に関する考え方 | 240分 | 講義・演習 |
| (6) アセスメントとケアの実践の基本Ⅱ（事例演習） | アセスメントを踏まえた目標の設定と、目標を実現するためのケアの実践に関する計画の作成・立案ができる。チームでケアの実践に関する計画の評価やカンファレンスを行うことができる。 | ・目標設定の考え方・ケアの実践に関する計画作成・ケアの実践に関する計画の評価とカンファレンス | 180分 | 講義・演習 |
| ３　実習 |
| (1) 自施設における実習の課題設定 | 認知症の人が望む生活の実現に向けて適切なアセスメントを通じた課題と目標を明確にし、ケアの実践に関する計画を作成する。 | ・自施設実習のねらい・対象者の選定と課題設定・ケアの実践に関する計画作成 | 240分 | 講義・演習 |
| (2) 自施設実習（アセスメントとケアの実践） | 研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズを明らかにするためのアセスメントができる。アセスメントの内容をもとに、認知症の人の生活支援に関する目標設定、ケアの実践に関する計画やケアの実践を展開できる。 | ・実習課題に沿ったアセスメント、目標設定、ケアの実践に関する計画作成、ケアの実施、モニタリング | 4週間 | 実習 |
| (3) 自施設実習評価 | アセスメントやケアの実践に関する計画の実施結果を整理した上で、客観的に評価、分析し今後の課題を明確にすることができる。 | ・アセスメントやケアの実践に関する計画の評価、分析・ケアの実践の報告 | 180分 | 講義・演習 |

　　　イ　認知症介護実践リーダー研修

講義・演習５６時間（3,360分） 実習：職場実習４週間（課題設定420分、実習のまとめ420分含む）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　　　　　　　　　　的 | 内　　　　　　　　　　容 | 時間数 | 区　分 |
|  １　認知症介護実践リーダー研修総論 |
| (1) 認知症介護実践リーダー研修の理解 | チームにおける認知症ケアを推進する実践リーダーの役割と研修科目との関係性を踏まえ、研修の概要を把握する。実践リーダーとしての自己の課題を確認し、研修における学習目標を明確にする。 | ・研修の位置づけ・科目のねらいと概要・自己課題と研修目標の設定 | 60分 | 講義・演習 |
| ２ 認知症の専門知識 |
| (1) 認知症の専門的理解 | 認知症の原因となる疾患別の容態、薬物治療、対応方法等に関する最新かつ専門的な知識を理解する。 | ・認知症の原因疾患と発生機序、疾患別の中核症状と行動・心理症状（ＢＰＳＤ）、合併しやすいその他の症状・認知症の診断基準、検査、原因疾患別の鑑別、若年性認知症の特徴、ＭＣＩの診断基準・認知症治療薬や行動・心理症状（ＢＰＳＤ）に適応のある薬物の主な作用機序と副作用、非薬物的介入法の開発状況・認知症の原因疾患毎の特徴を踏まえた上での対応のポイントや留意点・認知症の告知、若年性認知症に関わる社会的な課題、ターミナルケア等の課題 | 120分 | 講義・演習 |
| (2) 認知症ケアに関する施策の動向と地域展開 | 地域包括ケアシステムにおける認知症施策の変遷と最新の動向を理解する。地域における認知症施策の展開例を知り、地域包括ケアシステムの構築に必要な関係機関との連携・参画できるための知識を習得する｡ | ・認知症に関連する制度と施策の変遷・最新の認知症施策に関する概要・各施策や制度の実際の動向と地域への施策展開 | 240分 | 講義・演習 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　　　　　　　　　　的 | 内　　　　　　　　　　容 | 時間数 | 区　分 |
| ３　認知症ケアにおけるチームマネジメント |
| (1) 認知症介護実践リーダーの役割 | チームの構築や活性化のため、実践リーダーとしての役割を理解し、円滑にチームを運用する者であることの自覚を促す。 | ・チームにおける実践リーダーの役割・チーム運用と活性化の方法・チームづくりの技法（方針の決定、システムづくり、コミュニケーション等の調整） | 180分 | 講義・演習 |
| (2) チームにおけるケア理念の構築方法 | チームにおけるケア理念の必要性を理解し、ケア理念の構築とチーム内の共有化を図るための運用・展開方法を修得する。 | ・チームにおけるケア理念の必要性・チームにおけるケア理念の構築方法・チームにおけるケア理念の展開と運用方法 | 240分 | 講義・演習 |
| (3) 実践者へのストレスマネジメントの理論と方法 | チームケアを円滑に運用するため、ストレスの仕組みと対処法を理解した上で、実践リーダーとして実践者のストレスの緩和やメンタルヘルスのマネジメントを実践することができる。 | ・チームケアにおけるストレスマネジメントの方法・ストレスの仕組みと対処法・組織のメンタルヘルス対策と実践者への支援方法 | 180分 | 講義・演習 |
| (4) チームケアのためのケースカンファレンスの技法と実践 | チームケアの質の向上を図るため、カンファレンスの効果的な展開方法を身につけ、チームにおける意思決定プロセスの共有を実現することができる。 | ・カンファレンスの意義や目的・カンファレンスの種類や方法・演習によるカンファレンスの実施プロセスの体験 | 240分 | 講義・演習 |
| (5) 認知症ケアにおけるチームアプローチの基本と実践 | 多職種や同職種間での適切な役割分担や連携にあたって、認知症ケアにおけるチームアプローチの方法を理解し、実践するための指導力を身につける。 | ・認知症ケアにおけるチームアプローチの方法・認知症ケアにおけるチームの特徴や役割分担の方法・多職種や同職種間でのケアの目標や情報の共有方法、認知症ケアにおける効果的な連携方法 | 180分 | 講義・演習 |
| (6) 職場内教育（ＯＪＴ）の方法の理解と実践Ⅰ（運用法） | 認知症ケアの質の向上における人材育成の方法を理解し、特に職場内教育（ＯＪＴ）の種類、特徴を踏まえた実際の運用方法を修得する。 | ・人材育成の理論、方法・職場内教育（ＯＪＴ）の特徴・職場内教育（ＯＪＴ）の実施方法（計画の作成・指導・評価） | 240分 | 講義・演習 |
| 科　　目 | 目　　　　　　　　　　的 | 内　　　　　　　　　　容 | 時間数 | 区　分 |
| (7) 職場内教育（ＯＪＴ）の方法の理解と実践Ⅱ（技法） | 実践者への指導に有効な技法の種類と特徴を理解し、職場で実践できる指導技術の基本を修得する。 | ・職場内教育（ＯＪＴ）における指導技法の必要性・職場内教育におけるコーチング、スーパービジョン、面接の理論と技法 | 420分 | 講義・演習 |
|  ４ 認知症ケアの指導方法 |
| (1) 認知症ケアの指導の基本的視点 | 認知症ケアを指導する立場として、指導に関する考え方や基本的態度、認知症ケアの理念を踏まえた指導に必要な視点を理解する。 | ・認知症ケアの実践者に必要な知識、技術、態度の理解・実践リーダーに必要な基本的態度・認知症ケアの指導に必要な視点（倫理、権利擁護、食事、入浴等の指導） | 60分 | 講義・演習 |
| (2) 認知症ケアに関する倫理の指導 | 認知症ケアにおける倫理的課題の解決方法を理解するとともに、実践リーダーとして必要な認知症ケアの倫理の考え方や指導方法について理解する。 | ・倫理的課題の解決方法・終末期ケアの倫理・リスクマネジメントにおける倫理・職業倫理（利用者－ケア提供者の関係）・研究倫理 | 120分 | 講義・演習 |
| (3) 認知症の人への介護技術指導（食事・入浴・排泄等） | 実践者が適切な介護を行うため、食事・入浴などの基本的な生活場面において実践者に必要なアセスメントの視点や介護技術を評価するための考え方や指導方法を理解する。 | ・認知症の人の食事・入浴などの介護の目的と目的達成に必要な知識、技術、態度・実践者のアセスメント能力と介護技術の評価の視点と方法・実践事例を踏まえた指導課題の明確化、指導目標の設定、指導方法 | 240分 | 講義・演習 |
| (4) 認知症の人の行動・心理症状（ＢＰＳＤ）への介護技術指導 | 実践者が適切な介護を行うため、認知症の人の行動・心理症状（ＢＰＳＤ）に対する介護に必要なアセスメントの視点や介護の技術を評価するための考え方や指導方法を理解する。 | ・行動・心理症状（ＢＰＳＤ）への介護の目的と目的達成に必要な知識、技術、態度・実践者のアセスメント能力と介護技術の評価の視点と方法・実践事例を踏まえた指導課題の明確化、指導目標の設定、指導方法 | 180分 | 講義・演習 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　　　　　　　　　　的 | 内　　　　　　　　　　容 | 時間数 | 区　分 |
| (5) 認知症の人の権利擁護の指導 | 認知症の人の権利擁護に関する指導目標、知識や技術の評価方法や指導方法を理解する。認知症ケアにおけるリスクマネジメントの指導の視点を理解する。 | ・認知症の人の権利擁護の目的と目的達成に必要な知識、技術、態度の理解・認知症の人の権利擁護に関する知識や技術の評価の視点と方法・認知症の人の権利擁護に関する指導方法・認知症の人の生活リスクを低減するためのリスクマネジメント指導の必要性 | 240分 | 講義・演習 |
| (6) 認知症の人の家族支援方法の指導 | 認知症の人の家族支援に関する指導目標、知識や技術の評価方法や指導方法を理解する。 | ・認知症の人の家族支援に関する基本的態度や必要な知識、技術の理解・認知症の人の家族支援に関する実践者の知識や技術の評価の視点と方法・認知症の人の家族支援に関する指導方法 | 180分 | 講義・演習 |
| (7) 認知症の人へのアセスメントとケアの実践に関する指導 | 認知症の人の生活の質を向上させるため、アセスメントやケアの実践に関する評価方法や指導方法を身につける。 | ・認知症の人の生活の質を向上させるための基本的態度や知識、技術の理解・認知症の人へのアセスメントやケアの実践に関する評価方法・認知症の人へのアセスメントやケアの実践に関する指導方法 | 240分 | 講義・演習 |
|  ５ 認知症ケア指導実習 |
| (1) 自施設実習の課題設定 | 研修で学んだ内容を生かして、自施設の実践者の認知症ケアの能力の評価方法を理解する。 | ・認知症ケアの指導の実習の目標設定・実践者の認知症ケアの能力を評価するための観点とその方法 | 420分 | 講義・演習 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　　　　　　　　　　的 | 内　　　　　　　　　　容 | 時間数 | 区　分 |
| (2) 自施設実習 | 研修で学んだ内容を生かして、自施設の実践者の認知症ケアの能力の評価、課題の抽出、指導目標の設定や指導計画を作成し､指導計画に基づいた認知症ケアを指導する｡ | ・認知症ケアの能力の評価、課題の抽出、課題に応じた指導目標の設定、指導方法に関する指導計画の作成・作成した指導計画に基づいた指導の実践 | 18日 | 実習 |
| (3) 結果報告 | 自施設実習を通して、認知症ケア指導の方法に関する課題やあり方について客観的・論理的に考察・報告し、実践リーダーとして指導の方向性を明確にできる。 | ・実習の課題分析・報告 | 420分 | 講義・演習 |
| (4) 自施設実習評価 | ・実習評価 |

　（３）認知症対応型サービス事業開設者研修　講義６時間（360分）　職場体験８時間（480分）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　的　及　び　内　容 | 時間数 |
| １　認知症高齢者の基本的理解 | 認知症という病気と症状について、次の事項に関し、基本的な理解を図る。・「医学的理解」－医学面から本人の生活に及ぼす影響を示し、生活障害としての理解を深めること。・「心理的理解」－高齢者への周囲の不適切な対応・不適切な環境が及ぼす心理面の影響の内容を理解すること。・認知症という障害を抱える中で自立した生活を送ることの意味と、それを支援することの重要性を理解する。 | 　 60分 |
| ２　認知症高齢者ケアのあり方 | ・「認知症高齢者の基本的理解」を基に、「権利擁護」や「リスクマネジメント」の基本的な知識を付与し、認知症高齢者が、自分の能力に応じて自立した生活を送るために必要な、基本的な考え方を理解する。 |  　90分 |
| ３　家族の理解・高齢者との関係の理解 | ・家族介護のみではなく、他の家族も含めた家族の理解と、高齢者と家族の関係を通して、認知症介護から生じる家庭内の様々な問題や課題を理解し、家族への支援の重要性について理解する。 |  60分 |
| ４　地域密着型サービスの取組み | ・地域密着型サービスの指定基準（特に「地域との連携」「質の向上」）について理解する。・認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護及び看護小規模多機能型居宅介護の各事業所からの実践報告を通じ、各事業のサービス提供のあり方について理解する。 |  150分 |
| 現場体験 | ・事業者や介護従事者の視点ではなく、利用者の立場から各事業所におけるケアを体験することにより、利用者にとって適切なサービス提供のあり方、サービスの質の確保等について理解する。 |  480分 |
|  レポート提出 （A４版用紙５枚－５，０００字程度） | 研修（現場体験を含む）の受講を通じ、①　認知症高齢者ケアについて理解したこと②　今後の事業所運営に関して取り組みたいことなどについて、レポートを作成し提出すること。（修了証書は、レポート提出と引き替えに交付する。） |

　（４）認知症対応型サービス事業管理者研修　講義９時間（540分）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目的及び内容 | 時間数 |
| １　地域密着型サービス基準 | ・適切な事業所運営を図るため、地域密着型サービスの目的や理念を理解する。・適切な事業所管理を行うため、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、看護小規模多機能型居宅介護の各指定基準を理解する。 |  60分 |
| ２　地域密着型サービスの取組 | ・事業所からの実践報告を通じ、各事業のサービス提供のあり方について理解する。 |  90分 |
| ３　介護従事者に対する労務管理 | ・労働基準法の規定に基づき、適切な介護従事者の労務管理について理解する。 |  60分 |
| ４　適切なサービス提供のあり方 | サービス提供に当たり、次の事項について各事業所の運営・管理に必要な事項について理解する｡〈地域等との連携〉・利用者の家族・地域・医療との連携・運営推進会議の開催〈サービスの質の向上〉・アセスメントとケアプランの基本的な考え方・ケース会議・職員ミーティング・自己評価・外部評価の実施・サービスの質の向上と人材育成〈その他〉・権利擁護（高齢者虐待を含む）及びリスクマネジメント・記録の重要性　など | 330分 |

　（５）小規模多機能型サービス等計画作成者研修　講義９時間（540分）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　的　及　び　内　容 | 時間数 |
| １　総論・小規模多機能ケアの視点 | ・小規模多機能ケアに関わる法的制度を理解し、小規模多機能ケアとその視点を理解する。 | 　 60分 |
| ２　ケアマネジメント論 | ・小規模多機能型居宅介護及び看護小規模多機能型居宅介護のサービスのあり方を理解し、適切なプランの作成に資するよう、本人本位の視点を理解し、一人一人の在宅生活を支えるための機能とマネジメントを理解する。 |  　60分 |
| ３　地域生活支援 | ・本人の地域生活を支援するネットワークづくりと、そのあり方を理解する。また、地域・他機関との連携について理解する。 |  60分 |
| ４　チームケア （記録・カンファレンス・アセスメント・プラン） | ・小規模多機能ケアの基本である一人一人のニーズにチームで応えるチームケアについて理解する。 |  60分 |
| ５　居宅介護支援計画作成の実際 | ・「ケアマネジメント論」並びに「地域生活支援」等の講義内容を踏まえ、講義及び実際の事例を用いた演習を通じて、小規模多機能居宅介護計画の作成並びに他の居宅サービス利用を含めた居宅介護支援計画及び看護小規模多機能型居宅介護計画の作成について理解する。 | 講義　60分演習 240分 |

　（６）認知症介護指導者養成研修

講義・演習１９．５日間（135時間）、実習：職場実習４週間、他施設実習３．５日（24時間）、実習のまとめ14時間

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　　的 | 内　　容 | 時間数 | 区　分 |
|  １　認知症介護研修総論 |
| (1) 認知症介護実践者等養成事業の実施 | 認知症介護実践者等養成事業における各研修の目的や実施の背景、認知症介護指導者養成研修修了者（以下「指導者」という。）の役割について理解し、各研修の現状と課題を踏まえた実施方法を具体的に把握する。 | ・認知症介護実践者等養成事業の目的と実施の背景・実践研修等の概要と実施の方法・指導者の役割と実践的な取組み | ３時間  | 講義 |
| (2) 認知症ケアに関する施策と行政との連携 | 認知症ケアに関する施策の動向、施策に位置づけられた認知症ケアの専門職の役割やスキルを理解する。行政の役割を理解し、行政と効果的に連携・協働するための視点を理解する。 | ・認知症ケアと認知症関連施策の歴史・認知症施策の動向・専門職の役割とスキル・指導者と行政との連携・協働のポイントと事例 | ３時間  | 講義 |
| (3) 研修の目標設定と研修総括 | 認知症介護指導者養成研修の目的を踏まえ、自己課題を設定し、その達成状況について自己評価できる。自己課題の設定とその評価の経験を基にして、指導者としての自己研鑽のあり方を理解する。 | ・目標設定の理解と方法・今後の課題の検討・修了後の課題の検討・指導者のネットワークについて | 13時間  | 講義・演習 |
|  ２　認知症ケアにおける教育の理論と実践 |
| (1) 教育方法論 | 認知症ケアの現場や認知症介護実践者等研修において、実践者の課題解決能力を高めるために活用する技法やツールの特徴を理解する。 | ・討議の方法の特徴と活用・課題分析に関する技法・事例検討の方法の特徴と活用・認知症ケアに関連するツール・認知症ケア実践における課題解決の技法の活用（演習） | 20時間 | 講義・演習 |
| 科　　目 | 目　　的 | 内　　容 | 時間数 | 区　分 |
| (2) 授業設計法 | 認知症ケアにおける授業（講義・演習）の計画書の作成の際に必要となる基本的考え方や方法を理解する。模擬授業の計画作成を通して、授業のあり方について理解し、授業のねらいを踏まえた教材を準備することができる。 | ・授業計画や教材の作成の基本的考え方・授業計画におけるねらいの設定・授業のねらいを達成するための学習内容と授業の構造・授業計画の作成や効果的な授業の実施のポイント・授業の評価と改善方法・授業計画や教材作成（演習） | 28時間 | 講義・演習 |
| (3) 模擬授業 | 授業のねらいを踏まえた授業計画に基づく講義や演習を展開することができる。模擬授業での演習の成果や評価結果に基づいて、授業のねらい、内容、方法について改善のための提案ができる。 | ・模擬授業の実施・受講者間の討議による模擬授業の評価・模擬授業の修正 | 14時間 | 演習 |
| (4) 研修企画と評価 | 研修の位置づけや受講者の力量等研修の条件に合わせた研修目標、カリキュラムの構築やその評価方法の基本的考え方について理解し、適切な研修企画ができる。 | ・カリキュラムの基本的知識・研修目標の設定・研修内容と順序の検討・研修カリキュラムの評価 | ７時間 | 講義・演習 |
|  ３　認知症ケア対応力向上のための人材育成 |
| (1) 人材育成論 | 認知症ケアの特徴を踏まえた人材育成について理解する。キャリアパスの構築等効果的な人材育成のための組織体制づくりのあり方を理解する。 | ・認知症ケアにおける人材育成の特徴・人材育成における動機づけ・効果的な人材育成のための組織体制づくり | ３時間 | 講義 |
| (2) 成人教育論 | 成人教育学における成人の特徴を理解し、効果的な支援のあり方を考察する。 | ・成人教育学の基本的考え方・教育者の役割と倫理・学習支援の方法 | ４時間 | 講義・演習 |
| 科　　目 | 目　　的 | 内　　容 | 時間数 | 区　分 |
| (3) 認知症ケアに関する研究法の概論 | 認知症ケアについての学術的な課題設定、データ収集、分析・評価などの方法を理解する。 | ・学術的な研究の考え方とプロセス・研究課題の設定・介入方法に合わせたデータ収集の方法・分析と仮説の検証・研究成果のまとめ方やプレゼンテーション | ３時間 | 講義・演習 |
| (4) 職場研修企画 | 研修で学んだ内容を生かして、認知症ケアにおける研修企画、実践、評価をすることができる。職場研修における取組みの成果を分かりやすく報告することができる。 | ・職場研修に関するオリエンテーション・職場研修企画書の作成 | 14時間 | 演習・実習 |
| (5) 職場研修 | ・企画書に基づいた各職場における授業の実　践 | ４週間 |
| (6) 職場研修報告 | ・職場研修における取組み成果の報告 | 14時間 |
|  ４　地域における認知症対応力向上の推進 |
| (1) 地域における認知症の人への支援体制づくり | 地域包括ケアシステムや認知症の人を支えるための関係機関との連携体制の構築について、基本的考え方を理解し、地域において認知症の人に対する支援体制に関する課題の解決の提案ができる。 | ・関係機関等との連携体制における指導者の位置づけと役割・地域資源を活用した関係機関等との連携やネットワーク構築におけるポイント・医療・介護連携等の課題別の実践事例・地域における認知症の人に対する支援体制の目標と課題の整理 | ４時間 | 講義・演習 |
| (2) 他施設・事業所の指導のあり方 | 認知症の人の生活における課題の解決のため､他施設・事業所（特に在宅サービス）の認知症対応力の向上に向けた指導ができる。他施設・事業所を指導するための態度や視点､関わり方を理解する。 | ・他施設・事業所を指導するための視点やスキル・先駆的実践の理解・助言に向けた課題分析や行動計画（演習） | ４時間 | 講義・演習 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 科　　目 | 目　　的 | 内　　容 | 時間数 | 区　分 |
| (3) 他施設実習企画 | 他施設実習の目的や展開方法を理解し、実習に臨むにあたっての倫理的な配慮や実習における指導のあり方について理解する。 | ・実習の目的と目標・実習の流れ・実習における倫理的配慮や評価、実習施設の課題に対する提案方法 | １時間 | 講　義 |
| (4) 他施設実習 | 研修で学んだ内容を生かして、職場内教育（ＯＪＴ）、職場外教育（Ｏｆｆ－ＪＴ）に関する知識や技術を活用し、他施設・事業所の認知症ケアに対する指導を実践的に展開することができる。 | ・施設に関する情報収集や分析・実習施設に対する認知症ケアの課題解決のための提案内容の検討や提案 | 3.5日(24時間) | 実　習 |
| (5) 他施設実習中間報告 | 実習施設の課題の発生要因や課題に対する提案内容について、実習生同士で共有・検討することを通して、指導者としての態度や視点を深める。 | ・実習での取組み成果のとりまとめ・資料に基づいたプレゼンテーション・今後の実習の方向性の検討 | ７時間 | 演　習 |
| (6) 地域における指導の理論と実践（他施設実習総括） | 他施設実習での成果を振り返り、指導者としての自己の課題を明らかにした上で、今後、地域で実践するにあたっての取組みのあり方を検討する。 | ・実習成果の振り返り・実習生間の相互評価・助言・実習成果の振り返り結果報告 | ７時間 | 演　習 |

　（７）認知症介護指導者フォローアップ研修　講義・演習２８時間、研究授業１２時間

|  |  |
| --- | --- |
| テ　ー　マ | 研　　修　　目　　標 |
| １ 最新の認知症介護知識 （講義・演習８時間） | 最新の認知症介護の知識と指導方法等について理解を深める。 |
| ２ 認知症介護における人材育成方法（講義・演習８時間） | チームアプローチとリーダーシップ、スーパーバイズ、コーチングを中心に、認知症介護における人材育成方法を修得する。 |
| ３ 認知症介護における課題解決の具体的方法（演習１２時間） | 認知症介護における課題解決の具体的方法を修得する。 |
| ４ 認知症介護における効果的な授業開発（研究授業１２時間） | 認知症介護研修における効果的な授業の企画、運営のあり方、研修の教育評価方法を修得する。 |

※　「１　最新の認知症介護知識」においては、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく養介護施設従事者として必要な知識の付与に努めるものとする。